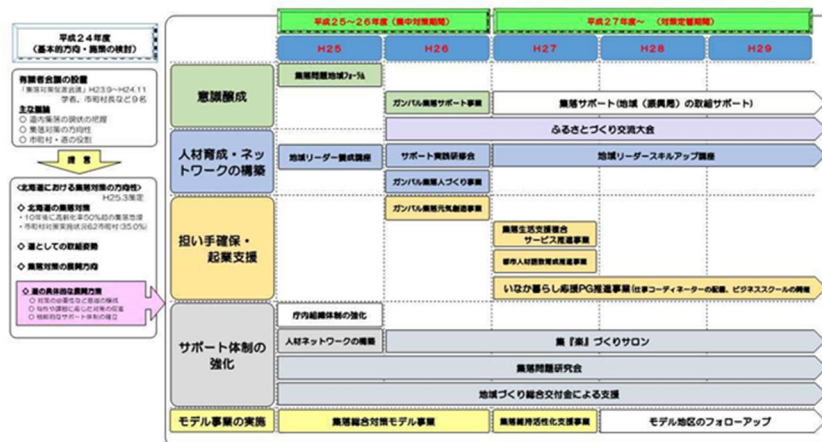


【資料4】


追加アンケート 調査結果

都道府県名	北海道		
事業名	集落総合対策事業		
目的	先進事例の紹介や交流・ネットワークの構築の場を提供するために、振興局職員や市町村職員、地域企業職員等を交えたミーティングやワークショップを開催しています。		
経緯	市町村職員や地域おこし協力隊のほか、企業やNPO法人など、道内各地で地域づくりや集落対策に取り組む関係者間での情報共有や連携の強化、ネットワークづくりを図るために開催した。		
予算規模	200万円以上 300万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	100人程度
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・全世代	
	職業	職業・・・把握していない	
受講対象	NPOや地域づくり団体スタッフ、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員、その他		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	未設定		
目標等	未設定		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	他の研修における講師への登用		
修了生との関係	道で配信しているメールマガジンへの寄稿依頼や別事業でのプレゼンターとして登壇していただくなどして関係性を維持しています。		
修了生の事例把握	把握していない		

北海道における集落対策の取組

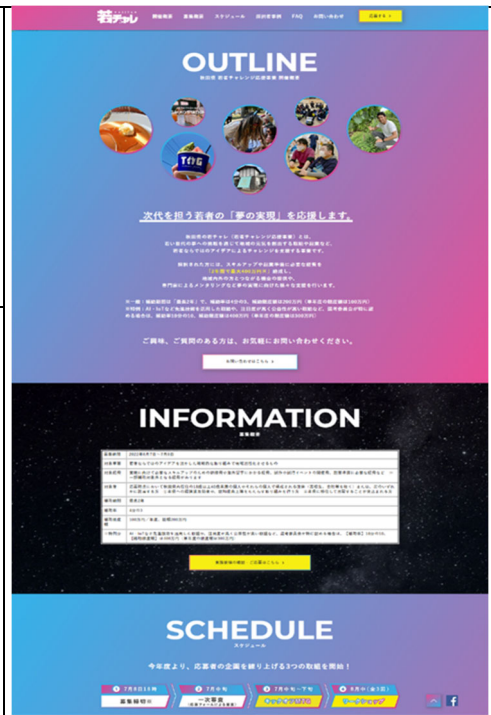


出典：北海道ホームページ

都道府県名	青森県		
事業名	地域創発人財育成事業（あおもり立志挑戦塾）		
目的	リーダーシップなど活動に関する心構えや理念哲学を学ぶ。		
経緯	本県では、経済のグローバル化、少子・高齢化の進行など社会経済環境が大きく変化している中、自主自立の青森県づくりを進め、本県が目指す施策を実現していくための基盤となる人財の育成を進めるため、「あおもりを愛する人づくり戦略」を策定。この取組の一つとして、主体的に地域経済や地域づくりを牽引するチャレンジ精神あふれる人財の育成を目的に、県内の若手・中堅層を対象に、平成20年度から開講		
予算規模	300万円以上 400万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下
実施形態	合宿型		
受講者属性	年代	30代未満	
	職業	職業会社員が中心	
受講対象	その他		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	設定している（塾修了者数）		
目標等	各期目標設定		
運営方法（主体）	実行委員会方式による運営		
修了生への対応	修了証の交付、OB・OG会の加入と定期的な交流機会の実施、他の研修における講師への登用		
修了生との関係	OB会に全5回のあおもり立志挑戦塾のグループディスカッションへファシリテーターとして参加してもらったり、全5回のうち1回を修了生との交流の機会として設定し、関係を構築している。		
修了生の事例把握	把握している。 ・令和元年度塾修了生: 県の魅力を発信する SNS を開始し、県内外に情報発信を行っている。 ・令和2年度塾修了生: 町との共同で若者を受け入れる居場所づくりを行ったり、地域を巻き込んだ自社製品の開発を行った。		

出典：青森県ホームページ

都道府県名	秋田県		
事業名	若者チャレンジ応援事業		
目的	若者の挑戦を応援し、夢の実現を後押しすることや、「秋田県でも夢は叶う」ということを広くPRすることで、県内定着・ふるさと回帰に繋げるもの。		
経緯	若者の挑戦を応援し夢の実現を後押しすることで、地域に新たな活力をもたらすとともに、「秋田でも若者の夢がかなう」ということを力強くPRすることで県内定着・ふるさと回帰を促進するため。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	令和元年度（平成31年度）	受講規模	100人程度
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	30、40代	
	職業	把握していない	
受講対象	その他		
効果検証	参加者アンケート実施、内部評価（課長級）実施、検証手法の議論あり		
成果指標	設定している（採択者数）		
目標等	各期目標設定		
運営方法（主体）	外部委託		
修了生への対応	OB・OG会の加入と定期的な交流機会の実施		
修了生との関係	各年度の若者チャレンジ応援事業採択者を一堂に会し、その後（伴走支援期間終了後）の取組についての成果報告会を実施するなど交流の場を設けている。※若者チャレンジ応援事業は、原則2年間の支援としている。		
修了生の事例把握	<p>把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例①『「秋田のお酒」のブランドイメージの向上。』 →テキーラの原料を使った新しいお酒の商品化、古い駅舎を醸造所に改修するなど、お酒を軸に地域活性化に寄与。 事例②『ジェラートで秋田を発信』 →イタリアでジェラート製造の技術を学び、地元でジェラート店をオープン。地元の果実や野菜などの食材を用いたオリジナル商品が好評。 		



出典：秋田県ホームページ

都道府県名	秋田県		
事業名	若者と地域をつなぐプロジェクト事業		
目的	将来の地域を担う若い世代が地域について主体的に考え、行動するための意識醸成やきっかけづくりを行う。		
経緯	高校訪問でヒアリングした際、教員や生徒より、授業等で若者ならではのアイデアや提言をする機会がないことや、地域の大人とつながる機会がない等の意見があったため。		
予算規模	300万円以上 400万円未満		
開始時期	令和元年度（平成31年度）	受講規模	把握なし
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	30代未満	
	職業	無職（学生）、その他	
受講対象	高校生、大学生等		
効果検証	参加者アンケート実施、内部評価（課長級）実施、検証手法の議論あり		
成果指標	設定している（事業への応募件数）		
目標等	各期目標設定、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法（主体）	外部委託		
修了生への対応	活動費用の補助・助成の適用		
修了生との関係	事業終了後、参加者との面会機会等は特に設けていないが、次のステップとなる事業の周知を図っている。		
修了生の事例把握	<p>把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の事業参加者が事業運営側（メンター等）として携わっている。 R2年度事業参加者がR3年度に若者チャレンジ応援事業（県事業）に応募。 R3年度事業参加者がR4年度に若者活躍プラットフォーム構築事業（県事業）に参加。R3年度事業参加者がNPO法人主催の地域づくり活動に参加。 		
	<p>「若者と地域をつなぐプロジェクト事業～国語・算数・理科・デザイン！～」第1回集中ワークショップについて</p> <p>2022年07月02日 コミュニティ情報 0004</p> <p>県では、高校訪問が活用する地域活性化に向けた取組を推進する「若者と地域をつなぐプロジェクト事業」を実施しています。今年度は研究された1チームによる県民の活動として、8月3日（土）に第1回集中ワークショップを開催いたしました。</p> <p>今回、各チームはそれぞれの地域を訪問し、そこから得られた情報をもとに企画した取組を、メンターによる支援を受けながら行っていました。</p> <p>＜本事業特設サイトはこちら＞ https://akita.ac/</p> <p>第1回集中ワークショップ概要</p> <p>【日 時】令和4年8月3日（土）10:00～15:00</p> <p>【場 所】秋田県文化会館 1階コミュニティスペース</p> <p>【参加費】フリー（15名）</p> <p>【内 容】</p> <p>今回は、県民銀行や中央図書館等を訪ねた後、各県で持参したおりの「おにぎり図解シート」を作成し、各チームで紹介しました。</p> <p>今回は、図解おにぎり（図解デザイン事務所）を講師に「地域を訪問すること」についての講義を行いました。</p> <p>また、事前に提出した課題（おにぎりの写真）を観察しながら、見つかったことや感じたことを参加者同士で共有し合い、観察することについて、議論しました。</p> <p>参加者は、ほごは開催した案件でしたが、午後には、積極的に参加者へ質問や、意見の交換をする姿が見られました。</p> <p>＜おにぎり図解ワークの様子＞</p>  <p>出典：秋田県ホームページ</p>		

都道府県名		栃木県	
事業名		栃木県地域づくり担い手育成事業	
目的		防災や福祉などの地域における共助の活動の実践事例を学ぶ、環境やユニバーサルデザインに配慮したまちづくり手法について学ぶ、高齢者から学生まで、様々な階層の活動参加の促進手法等を学ぶ、リーダーシップなど活動に関する心構えや理念、哲学を学ぶ、事業計画づくりやコミュニケーションなど地域マネジメントに係る知識や技法を学ぶ。	
経緯		<p>(平成23年頃～平成27年) 県において、地域課題解決のためのワークショップを随時開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法：各年度単発開催 ・対象者：県内の地域づくり実践者や若者等 <p>(平成28年度) 地域づくりの人材育成を目的とし「地域づくり担い手育成事業」として3段階の通年のプログラムに発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法：若者会議→ワークショップ→スキルアップ講座 ・対象者：若者会議(地域づくり未経験の若者)→ワークショップ(地域づくりに興味を持つ県民)→スキルアップ講座(地域づくりを実践中又は実践を検討している県民) <p>※このプログラム体系をベースとした事業を令和2年度まで継続</p> <p>(令和3年度) より若者の担い手を育成、確保していくことに重点を置き、地域づくり団体への参加や定着も狙っていくことで再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法：①地域づくり担い手育成プログラム(愛称：とちぎ地域づくりインターンシップ)、②地域づくり担い手支援プログラム(愛称：地域づくりスキルアップ講座) ・対象者：①地域づくりに興味がある若者(高校生、大学生、社会人)、②地域づくり実践者 	
予算規模		300万円以上400万円未満	
開始時期		平成26～30年度	受講規模
実施形態		通学型、オンライン型(ZOOMやWebex)	
受講者属性		年代	年齢・・・30代未満
		職業	職業・・・無職、その他
受講対象		NPOや地域づくり団体のスタッフ、高校生、大学生等	
効果検証		参加者アンケート実施	
成果指標		設定していない	
目標等		令和3年度目標設定 <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり担い手育成プログラムの参加者が団体と継続的な繋がりをもつ ・地域づくり担い手支援プログラムの参加者が団体の継続的な活動を行う 	
運営方法(主体)		外部委託	修了生への対応
			特になし
修了生との関係	引き続き地域づくり団体での活動体験への呼びかけや、地域づくりの実践者向けの講座(栃木県地域づくり担い手育成事業内のプログラム)への参加案内を行い、興味関心が継続するように努める。		
修了生の事例把握	把握している。 ・本事業をきっかけに立ち上がった団体・・・一般社団法人えんがお(大田原市)代表 濱野 将行氏 ◆H28年度受講者・・・高齢者の地域での孤立を防ぐため、大田原市中心部の空き家を改修し、若者と高齢者が交流できるスペースの整備や、繋がり作りに取り組む。		

出典：栃木県ホームページ

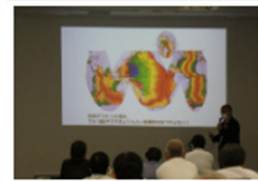
都道府県名	埼玉県		
事業名	彩の国環境大学		
目的	環境科学国際センターで研究している環境分野について学ぶ。		
経緯	平成9年度から県民が人間の活動と環境の関わりについて、理解を深め、環境に配慮したライフスタイルや社会経済システムを確立していくために、環境学習の機会を提供するとともに、埼玉県環境基本条例の理念に基づく循環型社会の構築に向けて自発的な活動を行う人材を養成(育成)することために彩の国環境大学を開講している。平成12年度に埼玉県環境科学国際センターが設置されたため、当センターの事業として引き継いでいる。		
予算規模	50万円以上 100万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型 (ZoomやWebex)		
受講者属性	年代	年齢・・・50代以上	
	職業	職業・・・把握なし	
受講対象	その他		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	設定していない		
目標等	各期目標設定、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法(主体)	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	修了証の交付		
修了生との関係	特になし		
修了生の事例把握	把握していない。		

1. 彩の国環境大学とは

彩の国環境大学は、県民の皆さまが人間の活動と環境の関わりについて理解を深め、環境に配慮したライフスタイルや社会経済システムを確立していくための学習の場であるとともに、循環型社会の構築に向けて地域で環境保全活動や環境学習活動を行うリーダーを育成することを目的として、埼玉県が開設するものです。

2. 各課程の概要

募集人数	基礎課程：100人 実践課程：40人
内容	基礎課程：環境問題全般について基礎的な内容を学びます。 実践課程：専門的な知識や地域で活動する指導者を養成するために必要な知識や手法を学びます。
日程	開講式・公開講座【会場開催】：8月27日(土曜日) 基礎課程【オンライン開催】：9月3日(土曜日)～10月8日(土曜日) 実践課程【会場開催】：10月8日、15日、22日、29日、11月5日(毎週土曜日開催) 公開講座・開講式【会場開催】：11月23日(水曜日・祝日) 詳しくは、 令和4年度彩の国環境大学受講案内(PDF:1.633KB) をご覧ください。 ※公開講座(8月27日(土曜日)、及び11月23日(水曜日・祝日))は、彩の国環境大学の受講生でなくても受講が可能です。
申込資格	県内に在住、在勤又は在学の18歳以上(令和4年4月1日現在)のかたで、地域で環境保全活動や環境学習活動を行う意欲のあるかた
受講料	無料
会場	埼玉県環境科学国際センター 研修室(加須市)



公開講座



実践課程

出典：埼玉県ホームページ

都道府県名	東京都		
事業名	AIIT シニアスタートアッププログラム		
目的	シニア起業に必要とされる知識・スキル（基礎科目）、事業開発手法（事例研究型科目）を修得・定着し、課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実施。		
経緯	都立産業技術大学院大学が持つ起業等に関連するノウハウを生かし、シニア層を中心に大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを促進することを通じ、生涯現役都市の構築を目指すために平成30年度より事業を開始した。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	平成26～30年度	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・50代以上	
	職業	職業・・・会社員	
受講対象	地域住民等		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	設定していない		
目標等	各期目標設定、到達		
運営方法（主体）	その他（大学）		
修了生への対応	修了証の交付		
修了生との関係	特段の取組はなし。		
修了生の事例把握	把握している。 ・令和2年度に当事業を修了し、その後、2名が起業、1名がフリーランスとして活動。		

【募集期間】
令和4年
6月24日(金)
8月19日(金)

本プログラム概要
本プログラムは、都立産業技術大学院大学が持つ、シニアスタートアップに関するノウハウを生かし、シニア層を中心に大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを促進することを通じ、生涯現役都市の構築を目指すために平成30年度より事業を開始した。

導入科目	10月開講	東京テックイノベーション概論
価値創造科目	10～11月開講	イノベーションマインド実践論 人間中心デザイン特論 東京テックイノベーション特別演習①
ビジネス創造科目	10～11月開講	意思決定実践・データ分析・スタートアップと会計・事業継続戦略特論
事例研究科目	10～12月開講	東京テックイノベーション特別演習②・医薬品研究開発特論
事業設計科目	1～2月開講	東京テックイノベーション特別演習③

導入科目
【ビジネスの導入】
東京テックイノベーション概論

価値創造科目 【ものづくりマインドの醸成】 ・イノベーションマインド実践論 ・人間中心デザイン特論 ・東京テックイノベーション特別演習①	ビジネス創造科目 【ビジネスマインドの醸成】 ・意思決定実践 ・データ分析 ・スタートアップと会計 ・事業継続戦略特論 特別演習②	事例研究科目 【ビジネスの事例研究】 ・東京テックイノベーション特別演習② ・医薬品研究開発特論
---	--	--

事業設計科目
【ビジネスプラン設計】
東京テックイノベーション 特別演習③

特徴

1. 東京都立産業技術センターでの施設見学・演習（東京テックイノベーション特別演習①）
2. ものづくり現場での施設見学・演習（東京テックイノベーション特別演習②）

修了者には学校教育法に基づき履修証明書を交付
※「人間中心デザイン特論」【事業継続戦略特論】において一定の成績を修めた場合、本学の正規科目として単位認定される。
本学へ正業学生として入学した際に、当該科目を修得済み科目として認定かつ当該科目分の授業料減免が可也

【受講料等】
令和4年9月5日(月) 履修手数料：9,800円
初回は本学が負担 受講料：98,800円

【開講】
令和4年10月3日(月)から

〒100-8558 東京都千代田区千代田 都立産業技術大学院大学 産研連携プログラム担当
E-mail: tokyo-tech-innovation@ait.ac.jp
TEL 03-5422-1111
FAX 03-5422-1112
URL https://ait.ac.jp/innovator_program/entrance_startup/
※この募集要項はAIITのHPに掲載されています。


AIIT 東京都立産業技術大学院大学
ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY

出典：東京都ホームページ

都道府県名	石川県		
事業名	地域交流による高等学校活性化事業		
目的	地域貢献活動の機会を設けるとともに、地域人材を生かして、生徒の学びへの動機付けを行う。地元企業と連携し、地域の社会課題の解決に取り組む実践的な教育活動を行う。		
経緯	地域との連携を強化し、地元で愛され必要とされる学校づくりを目指すとともに、地域を支える人材の育成を図ることを目的としている。		
予算規模	100万円以上 200万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・把握なし	
	職業	職業・・・把握なし	
受講対象	高校生、大学生等		
効果検証	検証なし		
成果指標	設定していない		
目標等	目標設定なし		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	在学時に本事業を受講した卒業生が、OB・OGとして本事業に関与することがある。		
修了生の事例把握	把握していない。		
<p>令和4年9月27日</p> <p>令和4年度地域交流事業：内灘高校第1回公開授業を開催しました</p> <p>令和4年度地域交流による高等学校活性化事業の一環として、本日公開授業を開催しました。全2回の予定で実施します。本校では「学ぶ楽しさ、分かる喜び」を教員と生徒が実感できる授業を目標としており、参加された方々からいただいた意見をもちに今後の授業改善に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。次回日は11月14日（月）です。お待ちしております。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>令和4年10月6日</p> <p>令和4年度地域交流事業：向粟崎小学校を訪問しました</p> <p>地域交流活性化事業公開授業として向粟崎小学校を訪ね、授業を観察させていただきました。元気いっぱい児童たちが口々に挨拶をしてくれて、とてもすがすがしい気持ちになりました。授業の様子や壁の掲示など多くのことから高校教育に資する学びを得ることができました。まずは授業についてはきちんとしたルールができていました。先生の問いかけに対して子どもたちはきちんと話を聞き、だれかが答える場面ではその反応を見ていて、話が終わるまで発言しない。また当てられて発言をするときはきちんと立ち上がって椅子を押し入れる。先生方はそうしたことを前提にうまく子どもたちを引き込んでいるので子どもたち全員がクラスの中で一体化して授業に参加している。そんな様子を本校の若手教員の先生方とともに参観することができました。Chromebookを用いた授業では事前の観察日記など、個々の取組とともにクラス内発表でも効果的に使っている様子が見て取れました。本校では早速若手教員の先生方の研修でその様子を共有することができました。今後も地域交流としての連携をよりよくお願いいたします。</p>  </div> </div>			
出典：石川県立内灘高等学校ホームページ			

都道府県名	石川県		
事業名	石川地域づくり塾		
目的	リーダーシップなど活動に関する心構えや理念、哲学を学ぶ、事業計画づくりやコミュニケーションなど地域マネジメントに係る知識や技法を学ぶ。		
経緯	平成16年度から、地域づくりの核となるリーダーの育成を目的として開講した。		
予算規模	50万円以上100万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・30、40代	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	NPOや地域づくり団体スタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員、高校生、大学生等		
効果検証	参加者アンケートあり		
成果指標	設定していない		
目標等	各期目標設定、到達		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	希望者には石川地域づくり協会の運営に参画してもらいながら、協会が委嘱している地域づくりコーディネーターとのネットワーク形成を図っている。		
修了生の事例把握	<p>把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25に修了。農家民宿を営みながら、県外学生の受け入れによる地域活性化に取り組んでいる。 ・H30に修了。空き家を活用し農家民宿を開業。移住相談のサポートや子育て支援活動等に取り組んでいる。 ・ただし、令和元～3年分は把握していない。 		

出典：石川県ホームページ

都道府県名	福井県		
事業名	人権教育指導研修事業		
目的	行政、教育機関、公民館・企業等で「地域づくり人材」育成の中心となる指導者に対し、計画的に人権教育指導研修を実施し、指導力の向上に努める。		
経緯	県内でもかつて差別問題が発生した。これを受けて、広く県民に人権問題に対する理解と認識を深め、差別意識の払拭を図り、同和問題をはじめとする人権問題の解決に資する事業をしてほしいという要請があったため。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	2,000人規模
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）、通信教育型		
受講者属性	年代	年齢・・・50～65未満	
	職業	職業・・・公務員	
受講対象	自治会、地域協議会等関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員等、その他		
効果検証	参加者アンケートあり		
成果指標	設定していない		
目標等	各期目標設定、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法（主体）	外部委託		
修了生への対応	活動費用の補助・助成の適用		
修了生との関係	<p>様々な補助をすることで、各市町において、人権問題を中心に、地域づくりがしやすいように支援を行っている。</p>	 <p>「人権教育・啓発講師および事業所人権啓発責任者研修会」</p> <p>講師：中嶋 三由郎 氏（北芝まちづくり協議会事務局長）</p> <p>【講師紹介】 1981年、大塚生まれ。2003年～2007年、NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝の職員として、「おたがいさま祭り」の発展を目標としたまちづくりの取組に携わった。2007年より、北芝まちづくり協議会事務局長。2010年4月から2017年まで、北芝まちづくり協議会北芝支部の支部長を務める。2008年に北芝まちづくり協議会議員に就任し、現在も協議会議員として活動している。 北芝地区の活動は、昨年12月にNHKのEテレ「バラバラ」でも紹介され、話題となる。</p>	
修了生の事例把握	<p>把握している。 ・令和3年度に当該事業を終了し、その後、県内で、人権推進活動を実践している。 →人権問題社会教育指導員や公民館主事として活動。</p>	<p>形式 オンライン開催（Zoom開催および録画配信） 日時 Zoom開催：令和3年3月2日（火）13:30～15:00 録画配信：令和3年3月5日（金）10:00～3月14日（日）24:00 主催 福井県・福井県教育委員会 共催 福井労働局・公共職業安定所 後 福井地方方法務局 申込方法 ●複数名でお申込みの場合は、参加者の所属・氏名・ふりがな・電子メールアドレス・電話番号の一覧（様式は任意）を作成いただき、下記アドレスに電子メールにて申込み願います。一覧表（申込用紙）は、福井県ホームページ専用サイト「人権教育・啓発講師および事業所人権啓発責任者研修会」からダウンロードしていただくことも可能です。 ●個人でお申込みの場合は、所属・氏名・ふりがな・電子メールアドレス・電話番号を添えて、下記アドレスに電子メールにてお申し込みください。 申込先 k-yamada-9@pref.fukui.lg.jp 申込締切 2月25日（水） ※申込みいただいた電子メールアドレスに、2月25日（水）～26日（金）の間に、ZoomのURL・ミーティングID・パスワードをお送りします。また3月3日（水）～4日（木）の間に、録画配信サイトのURLをお送りします。 ※録画配信は、期間内であれば何度でも視聴できます。 ※参加後に、事前にお送りする専用URLにアクセスいただき、アンケートへの協力をお願いいたします。 ※本研修会開催期間中、福井県ホームページ内専用サイト「人権教育・啓発講師および事業所人権啓発責任者研修会」にて、公正採用選考に関する資料（厚生労働省・福井労働局）、福井県の人権課題に関する資料（福井県地域福祉課人権室・障がい福祉課）を公開しておりますので、併せて是非ご覧ください。 ※申込等でお取付した個人情報、本研修会にお申し込みの方への連絡、今後の研修会のご案内のためにのみ使用させていただきます。 ※本講演は、カメラ・スマートフォンなどによる画面録画・撮影・録音はすべて禁止いたします。無断使用、無断転載、また、動画サイトなどへの共有も禁止です。</p> <p>お問い合わせ先 福井県地域福祉課人権室 TEL：0776-20-0328 E-mail：k-yamada-9@pref.fukui.lg.jp</p> <p>出典：福井県ホームページ</p>	

都道府県名		静岡県																							
事業名	コミュニティ・カレッジ																								
目的	高齢者から学生まで、様々な階層の活動の参加の促進手法等を学ぶ、事業計画づくりやコミュニケーションなど地域マネジメントにかかる知識や技法を学ぶ。																								
経緯	昭和55年度から毎年、地域づくり活動を牽引するコミュニティリーダーの養成を目指して、自治会や各種団体に所属するコミュニティづくりに携わる方等を対象に実施している。																								
予算規模	100万円以上200万円未満																								
開始時期	平成25年度以前	受講規模	100人程度																						
実施形態	通学型、オンライン型 (ZoomやWebex)																								
受講者属性	年代	年齢・・・65歳以上																							
	職業	職業・・・団体職員																							
受講対象	NPOや地域づくり団体スタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等																								
効果検証	参加者アンケートあり、内部評価 (担当者) あり、外部評価あり																								
成果指標	設定している (修了者数)																								
目標等	各期目標設定、未達に対し必要な取り組み認識あり																								
運営方法 (主体)	その他																								
修了生への対応	修了証の交付、OB・OG会の加入と定期的な交流機会の実施、フォローアップ研修の実施																								
修了生との関係	希望者は講座修了者で構成されるネットワークに加入し、地域ごと研修や情報交換を行っている。																								
修了生の事例把握	把握していない。																								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">コミュニティカレッジプログラム</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>期</th> <th>月日</th> <th>テーマと時間</th> <th>会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">令和4年 10月15日 (土)</td> <td rowspan="2">ハイブリッド</td> <td>10:00 ~ 12:15 ▼開講式 会長挨拶 ▼講義 (2回) 「今、そして次の一歩を考える」 ～連携、発信、仕掛けを探る～ 川口辰子 氏 (合同会社デザイン・アープ代表) 地域コーディネーターをゲストにお迎えし、人材確保、若者や行政との連携、情報発信の大切さ等について川口先生が担当に代わりお話しします。</td> <td rowspan="2">静岡市民文化会館 (旧修善寺)</td> </tr> <tr> <td>13:15 ~ 15:15 ▼アイスブレイク講義 「私が変わる、地域が変わるコミュニティ」 ～サークル始めよう聞くコミュニティづくり～ 平田 厚 氏 (静岡福祉文化実践研究所) コミュニティの原点はどこから? どのような広がり、今後どのように展開していくの? などの視点から、福祉の観点から地域活動の原点等を学びます。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和4年 10月29日 (土)</td> <td rowspan="2">ハイブリッド</td> <td>10:00 ~ 12:00 ▼講義 「これからのコミュニティ」 ～新たな建物の創造を～ 伊藤光浩 氏 (NPO法人くらしまち経済機構理事長) コミュニティ活動を継続するポイントに幅広い視点を持つこと、コミュニティ活動ながら活動が広がること、コミュニティ活動の5年後、10年後を考えたみてみます。</td> <td rowspan="2">静岡市民文化会館 (大倉庫)</td> </tr> <tr> <td>13:00 ~ 15:30 ▼講義 「若者が活躍するコミュニティ」 ～多様な人材を巻き込み、多様化する課題を乗り越えて～ 加藤子 氏 (静岡大学教育学部教授) 参加者の関わりはあきません? 若者共同歩調の意識を高めることは活動の活性化につながります。防災・災害対応の好事例を聞きながら、多様な人材を巻き込む方法を考えたいと思います。</td> </tr> <tr> <td>令和4年 11月中旬 対面のみ</td> <td></td> <td>▼現地訪問 (県内5カ所の見学行程) コミュニティ活動員(学生)を中心とした地域づくりに関与されている団体(団体)において、優秀な実例を学ぶ機会や、先進的な活動をしている団体を訪問します。 ※期：11月9日(木) 明後地域まちづくり推進協議会 (小山町) ※期：11月17日(木) チームおもしろ居宅 (静岡市) ※期：11月20日(日) 高町第三日曜市 (浜松市)</td> <td>現地</td> </tr> <tr> <td>令和4年 12月10日 (土) 対面のみ</td> <td></td> <td>▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～</td> <td>静岡県総合社会福祉会館 (901)</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 50%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">10/15オープニングを語る講師のゲスト</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p style="text-align: center;">講師のプロフィール (五十音順)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆池田孝子 氏 静岡大学教育学部教授 専門分野は社会学。性別や多様な立場の人々の視点に基づく防災体制づくりの講義、研究、教材作成等研修できる人を取りまき推進力を入れている。 ◆伊藤光浩 氏 NPO法人くらしまち経済機構理事長 県内市町を中心に、総合計画、都市計画などに携わる。NPO、自治会を含むコミュニティ団体、行政などと連携し、地域を豊かにするプロジェクトに多数関わっている。 ◆川口辰子 氏 合同会社デザイン・アープ代表 県内各地の施設等の修繕や地域復興施設等の整備を手掛ける。ハード整備を策定したまちづくりや地域振興の推進をサポート。数回地域づくりアドバイザー、静岡県活動員養成講座アドバイザー、橋本市まちづくりアドバイザー等。 ◆平田 厚 氏 静岡福祉文化実践研究所長 障害者への支援に従事後、県社会福祉協議会で地域福祉、福祉教育、人材確保推進事業等を推進。その後、大学において福祉職従事者向けに。これまで27年間、専門性と市民性の融合を軸とし、福祉文化実践活動を推進中。 ◆加藤子 氏 地域デザイン研究所長 県内の市町を中心に、都市計画プランナーとして地域づくり、街並みデザインづくりに携わる。「開創(開創)市民会議」や「富士会館さくら学校」など、市民参加にも積極的に取り組んでいる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">現地訪問団体の紹介 (順不同)</p> <p>明後地域まちづくり推進協議会 (小山町) ホテルの経営者、ジャンボ力ボテの施設と利用、市民山ハイキングを3本柱に活動。地域の活性化を目的に様々な事業を展開し、市民参加の取り組みを進めている。</p> <p>チームおもしろ居宅 (静岡市) 大井(建設)の導入(社会福祉)を活用して地域の新たな魅力スポットを創出し、地域住民の憩いの場にするために地域外からの交流人口の増加に努めている。</p> <p>高町第三日曜市 (浜松市) 日内会が行ったアンケートで、高齢者の買い物難点であることから日内会内で活動が開始された。買い物難点として認識した際、近隣の学校のクラブを借りる等、ふれあいの場としての充実を図る。</p> </div> </div> </div>				期	月日	テーマと時間	会場	令和4年 10月15日 (土)	ハイブリッド	10:00 ~ 12:15 ▼開講式 会長挨拶 ▼講義 (2回) 「今、そして次の一歩を考える」 ～連携、発信、仕掛けを探る～ 川口辰子 氏 (合同会社デザイン・アープ代表) 地域コーディネーターをゲストにお迎えし、人材確保、若者や行政との連携、情報発信の大切さ等について川口先生が担当に代わりお話しします。	静岡市民文化会館 (旧修善寺)	13:15 ~ 15:15 ▼アイスブレイク講義 「私が変わる、地域が変わるコミュニティ」 ～サークル始めよう聞くコミュニティづくり～ 平田 厚 氏 (静岡福祉文化実践研究所) コミュニティの原点はどこから? どのような広がり、今後どのように展開していくの? などの視点から、福祉の観点から地域活動の原点等を学びます。	令和4年 10月29日 (土)	ハイブリッド	10:00 ~ 12:00 ▼講義 「これからのコミュニティ」 ～新たな建物の創造を～ 伊藤光浩 氏 (NPO法人くらしまち経済機構理事長) コミュニティ活動を継続するポイントに幅広い視点を持つこと、コミュニティ活動ながら活動が広がること、コミュニティ活動の5年後、10年後を考えたみてみます。	静岡市民文化会館 (大倉庫)	13:00 ~ 15:30 ▼講義 「若者が活躍するコミュニティ」 ～多様な人材を巻き込み、多様化する課題を乗り越えて～ 加藤子 氏 (静岡大学教育学部教授) 参加者の関わりはあきません? 若者共同歩調の意識を高めることは活動の活性化につながります。防災・災害対応の好事例を聞きながら、多様な人材を巻き込む方法を考えたいと思います。	令和4年 11月中旬 対面のみ		▼現地訪問 (県内5カ所の見学行程) コミュニティ活動員(学生)を中心とした地域づくりに関与されている団体(団体)において、優秀な実例を学ぶ機会や、先進的な活動をしている団体を訪問します。 ※期：11月9日(木) 明後地域まちづくり推進協議会 (小山町) ※期：11月17日(木) チームおもしろ居宅 (静岡市) ※期：11月20日(日) 高町第三日曜市 (浜松市)	現地	令和4年 12月10日 (土) 対面のみ		▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～	静岡県総合社会福祉会館 (901)
期	月日	テーマと時間	会場																						
令和4年 10月15日 (土)	ハイブリッド	10:00 ~ 12:15 ▼開講式 会長挨拶 ▼講義 (2回) 「今、そして次の一歩を考える」 ～連携、発信、仕掛けを探る～ 川口辰子 氏 (合同会社デザイン・アープ代表) 地域コーディネーターをゲストにお迎えし、人材確保、若者や行政との連携、情報発信の大切さ等について川口先生が担当に代わりお話しします。	静岡市民文化会館 (旧修善寺)																						
		13:15 ~ 15:15 ▼アイスブレイク講義 「私が変わる、地域が変わるコミュニティ」 ～サークル始めよう聞くコミュニティづくり～ 平田 厚 氏 (静岡福祉文化実践研究所) コミュニティの原点はどこから? どのような広がり、今後どのように展開していくの? などの視点から、福祉の観点から地域活動の原点等を学びます。																							
令和4年 10月29日 (土)	ハイブリッド	10:00 ~ 12:00 ▼講義 「これからのコミュニティ」 ～新たな建物の創造を～ 伊藤光浩 氏 (NPO法人くらしまち経済機構理事長) コミュニティ活動を継続するポイントに幅広い視点を持つこと、コミュニティ活動ながら活動が広がること、コミュニティ活動の5年後、10年後を考えたみてみます。	静岡市民文化会館 (大倉庫)																						
		13:00 ~ 15:30 ▼講義 「若者が活躍するコミュニティ」 ～多様な人材を巻き込み、多様化する課題を乗り越えて～ 加藤子 氏 (静岡大学教育学部教授) 参加者の関わりはあきません? 若者共同歩調の意識を高めることは活動の活性化につながります。防災・災害対応の好事例を聞きながら、多様な人材を巻き込む方法を考えたいと思います。																							
令和4年 11月中旬 対面のみ		▼現地訪問 (県内5カ所の見学行程) コミュニティ活動員(学生)を中心とした地域づくりに関与されている団体(団体)において、優秀な実例を学ぶ機会や、先進的な活動をしている団体を訪問します。 ※期：11月9日(木) 明後地域まちづくり推進協議会 (小山町) ※期：11月17日(木) チームおもしろ居宅 (静岡市) ※期：11月20日(日) 高町第三日曜市 (浜松市)	現地																						
令和4年 12月10日 (土) 対面のみ		▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～ ▼演習 「コミュニティ(実践)づくり」 ～ワークショップの手法(実践)～	静岡県総合社会福祉会館 (901)																						

出典
静岡県コミュニティ
づくり推進協議会
ホームページ

都道府県名	京都府		
事業名	災害時連携 NPO 等ネットワーク		
目的	防災や福祉などの地域における共助の活動の実践事例を学ぶ。		
経緯	平成26年福知山市豪雨災害時に、被災したNPOが普段から付き合いのあった別地域のNPOに助けを求め、水没したパソコンの代替品提供などの支援を受けたことをきっかけに、平成27年度に「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立準備委員会を設置。平成28年5月の設立準備委員会において、同ネットワークを設立。事務局は京都府。災害対応を考える事業の一環として、関係団体とつながりを持ち、支援ノウハウの習得や人材育成、情報交換等を行うシンポジウム等を毎年開催。		
予算規模	50万円未満		
開始時期	平成26～30年度	受講規模	50人以下
実施形態	オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・把握なし	
	職業	職業・・・把握なし	
受講対象	NPOや地域づくり団体スタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員		
効果検証	参加者アンケートあり		
成果指標	設定していない		
目標等	目標設定なし		
運営方法（主体）	実行委員会方式による運営		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	ネットワークへの加盟推進。		
修了生の事例把握	把握していない。		


きょうと地域創生市民会議協賛事業

オンライン
シンポジウム

災害時連携 NPO 等ネットワーク
～ひと声かけて支え合おう～

いま、『避難』を考える

避難現場での支援と助け合いのあり方



2/18 sat 14:00～16:30 参加無料

「災害時連携 NPO 等ネットワーク」は自然災害による被害が京都府内で発生した場合、府内で社会課題の解決や公益性を担っている非営利組織（NPO 法人、自治組織、経済団体等）が有する専門性や経験を活かし、連携することで「特別なニーズ」をもった被災者への支援及び NPO 等の相互支援を行うことができるよう関係団体との繋がりをもち、支援ノウハウの習得や人材育成、情報交換等を行うことを目的として活動しています。

多岐のシンポジウムでは、京都市におけるウクライナからの避難者の現状に関する基調報告を行います。そこから、日本の自然災害における「避難」とは何かを NPO 法人や大学教員など様々な立場からディスカッションを行い、災害等が多発する日本でどう避難するのか、どう避難を支援していくのか考えるきっかけを提供します。

CONTENT

基調報告
ウクライナからの避難 - 京都市での取組事例

シンポジウム
いま、『避難』を考える - 避難現場での支援と助け合いのあり方

※シンポジウムは、オンライン（Zoom）による配信にて開催いたします。

お申込方法など、詳しくは次頁以降をご覧ください。

主催 災害時連携 NPO 等ネットワーク
協力 京都府災害ボランティアセンター、京都市災害ボランティアセンター

出典：災害 NPO ネットホームページ

都道府県名	和歌山県		
事業名	地域づくりネットワーク和歌山県協議会研修交流会		
目的	年度ごとにテーマを設定し、幅広く地域づくりについて学ぶ。		
経緯	地域づくり団体相互の交流を推進するとともに、自主的・主体的な活動への取り組みを促進するため、H20年度以前から事業を実施している。		
予算規模	50万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・把握なし	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	NPOや地域づくり団体スタッフ、自治会、地域協議会等関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員、高校生・大学生、その他		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	設定なし		
目標等	目標設定なし		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	前年度の研修の参加者に対し、研修交流会の参加案内を送付している。		
修了生の事例把握	把握していない。		

地域づくりネットワーク和歌山県協議会研修交流会2023 開催レポート

【実施年月日】

2023年2月7日(火) 13:30～16:20

【開催場所】

オンライン及び以下のサテライト会場
 県庁東別館5階5-A会議室、那賀振興局3階入札室、伊都振興局1階研修室、有田振興局1階研修室、
 日高振興局2階小会議室、西牟婁振興局1階中会議室B、東牟婁振興局2階第2会議室

【事業の目的】

活動事例の聴講や意見交換等を通じて、地域づくり団体の活動がさらに発展することを目的に開催

【実施内容】

人口減少や少子高齢化等により空き家が増加しており、和歌山県は空き家率が全国ワースト2位という状況です。一方、全国各地で空き家を活用した地域活性化の取組が行われていることから、地域づくりネットワーク和歌山県協議会では、会員や宅建物取引業者等の方を対象に「空き家を活用した地域づくり」をテーマとした研修会を開催し、74名の方に参加いただきました。

講演では、山形県鶴岡市の特定非営利活動法人つるおかランド・バンクの「地方の小規模連環型成功事例と今後」について、兵庫県丹波市の特定非営利活動法人佐治倶楽部の「空き家リノベーションを通じた地域の再生」について具体的な手法や事例を紹介いただきました。また、県内の事例紹介として、紀の川市で活躍するきのかわ空き家活用チームから「フリマアプリを活用した空き家の不要物販売の取組」について紹介いただきました。

参加者からは「空き家の持ち主へのアプローチの方法が分かり参考になった」、「地域住民が集える場所として空き家を活用したい」、「情報交換をしたので、今後も付き合いをさせてほしい」と多くの質問や意見があり、団体間の交流につながる研修会となりました。

【講師】

- ・特定非営利活動法人つるおかランド・バンク 理事長 廣瀬大治 氏
- ・特定非営利活動法人佐治倶楽部 代表理事 出町慎 氏
- ・きのかわ空き家活用チーム 西峰祐美 氏

【今後の展開】

県内外の団体が取組む優良事例の紹介や意見交換等、地域づくり団体相互の交流につながる研修会を開催



サテライト会場の様子

出典
和歌山県
ホームページ

都道府県名	岡山県		
事業名	おかやま創生 高校パワーアップ事業		
目的	おかやま創生を担う人材の育成		
経緯	<p>「おかやま創生 高校パワーアップ事業」は、県内の9つの県立高校—瀬戸南高等学校、邑久高等学校、勝山高等学校、真庭高等学校、鴨方高等学校、勝間田高等学校（以上、平成28年度～30年度事業の第1期校）、井原高等学校、新見高等学校、勝山高等学校蒜山校地、林野高等学校（平成30年度～令和2年度事業の第2期校）を推進校とし、それぞれ3か年地域社会の様々な主体と連携して独自の教育プログラムを展開し、その成果を全県の教育につなげていくことを目的として実施した。推進校の取組は、地方創生における高校教育の重要性に注目し、高校生に対して知識や技術を付与することのみでなく、地域を担う気持ちと、地域への愛着や誇りを醸成することを従来にもまして重視し、地元への就職や将来のUターンにつなぐことを強く意識した。</p>		
予算規模	400万円以上 500万円未満		
開始時期	平成26～30年度	受講規模	1,000人程度
実施形態	通学型		
受講者属性	年代	年齢・・・30代未満	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、高校生、大学生等		
効果検証	参加者アンケート実施、内部評価（担当課）実施、外部評価実施		
成果指標	<p>設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の更なる推進と地元産業の振興への寄与（ex：社会貢献活動へののべ参加者数） ・グローバル人材育成の推進（ex：実用英語検定の受検者数と合格者数） ・グローバル人材育成の推進（ex：学校自己評価アンケート） ・地域スポーツの振興への寄与（ex：大会への出場チーム数） 		
目標等	各期目標設定あり		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営、外部委託（岡山大学）		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	高校卒業後のフォローアップまでは行っていないが、当該事業における活動の成果等を学校の学びに継承している。		
修了生の事例把握	把握している。 ・実施報告書に記載		

地域から学び、地域に貢献する！
「おかやま創生 高校パワーアップ事業」
 県教育委員会では地域の課題やニーズを踏まえ、おかやま創生を担う人材の育成や、地域の活性化に貢献する県立高校の魅力化を図る「おかやま創生 高校パワーアップ事業」を行っています。

この事業に取り組み、地域の魅力を生かした学びを展開する県立高校を紹介します！

<p>瀬戸南高校 グローバル地域を担う「匠の農業技術」人材の育成</p> <p>農業技術者としてのスキルを身に付け、地域を担うための農業技術に精通し、地域の活性化に貢献する人材を育成しています。</p> <p>農産物の生産から加工・流通まで一貫して学び、実践力を身につけていきます。</p> <p>農産物の生産から加工・流通まで一貫して学び、実践力を身につけていきます。</p>	<p>真庭高校 森林資源を活用したまちづくりを担う人材の育成</p> <p>森林資源を活用したまちづくりを担う人材を育成しています。</p> <p>森林資源を活用したまちづくりを担う人材を育成しています。</p> <p>森林資源を活用したまちづくりを担う人材を育成しています。</p>
<p>鴨方高校 産学連携による環境保全活動を推進し、地域を担う人材の育成</p> <p>産学連携による環境保全活動を推進し、地域を担う人材を育成しています。</p> <p>産学連携による環境保全活動を推進し、地域を担う人材を育成しています。</p> <p>産学連携による環境保全活動を推進し、地域を担う人材を育成しています。</p>	<p>勝間田高校 木材資源を活用した地域振興を担う人材の育成</p> <p>木材資源を活用した地域振興を担う人材を育成しています。</p> <p>木材資源を活用した地域振興を担う人材を育成しています。</p> <p>木材資源を活用した地域振興を担う人材を育成しています。</p>

これら5校の他に、以下の5校でも、地域と連携した特色ある教育内容づくりに取り組んでいます。

井原高校 新見高校 邑久高校 勝山高校 林野高校

—Question & Answer— 県立高校の新しい学科の疑問にお答えします！

<p>平成30年4月 津山工業高校 ロボット電気科 履修生</p> <p>—1行が進む社会に対応でき、地域を支える技術者を育成—</p> <p>① ロボット電気科の魅力は？</p> <p>② 履修生はどのような活動を行っていますか？</p> <p>③ 卒業後はどのような進路が考えられますか？</p>	<p>平成30年4月 倉敷工業高校 デジタルデザイン科 履修生</p> <p>—これからの「職種のまち創生」を支える工業人を育成—</p> <p>① デジタルデザイン科の魅力は？</p> <p>② 履修生はどのような活動を行っていますか？</p> <p>③ 卒業後はどのような進路が考えられますか？</p>
---	--

県立学校のホームページ一覧は県教育委員会高校教育課のページから **岡山県立学校一覧** で検索

出典：岡山県ホームページ

都道府県名	岡山県		
事業名	高等学校魅力化推進事業（リージョナルモデル）		
目的	時代の進変化や社会のニーズに対応できる人材の育成		
経緯	平成31年2月に策定した岡山県立高等学校教育体制整備実施計画に掲げる県立高等学校の魅力化に向け、3学級規模の高校が地域との連携の在り方等を研究し、配置したコーディネーターを活用した地域との連携促進など、教育の質を確保した魅力づくりを図るリージョナルモデルグループ（RM）6校を指定し、県立高校の魅力化の促進や、地域人材の育成を図る。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	令和元年度（平成31年度）	受講規模	2,000人規模
実施形態	通学型		
受講者属性	年代	年齢・・・30代未満	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、高校生、大学生等		
効果検証	外部評価実施		<p align="center">高等学校魅力化推進事業について</p> <p>岡山県教育委員会では、県立高校の魅力化を推進するため、令和元年度から「高等学校魅力化推進事業」を実施し、次の高校において研究等を行っています。</p> <p>○リーディングモデル（LM） 2校 時代をリードする教育内容等を研究し、新学科等の設置を目指す。 岡山朝日高校（探究的な学びによる、新たな社会を牽引し世界の未来を拓くリーダーの育成） 岡山工業高校（STEAM教育による、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成） ※括弧内は研究テーマ</p> <p>○リージョナルモデル（RM） 10校 1学年3学級規模の高校が地域との連携の在り方等を研究し、教育の質を確保した魅力づくりを図る。（和気閑谷高校については、国の事業を活用して取り組む。） 【第1期】（令和元年度～） 笠岡工業高校（「笠エテクノ工房」を軸とした地域に貢献する「人材」の育成） 笠岡商業高校（地域資源を活かした学びの実践による人材の育成） 高梁城南高校（「城南カフェ」を中心とした地域創生人材の育成） 鴨方高校（産官学連携による地域貢献及び人材の育成） 和気閑谷高校（「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成） 矢掛高校（町と協働した地域連携組織による人材の育成） 【第2期】（令和2年度～） 邑久高校（地域連携を通じた学校の魅力づくり） 林野高校（地域を理解し、地域に貢献する人材の、地域と連携した育成） 【第3期】（令和3年度～） 岡山御津高校（地域連携を通じた学校の魅力づくり） 勝間田高校（地域と共に高め合う総合学科の地域連携のあり方） ※括弧内は研究テーマ</p> <p align="right">出典：岡山県ホームページ</p>
成果指標	設定なし		
目標等	各期目標設定あり、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法（主体）	都道府県の職員を中心とする運営、実行委員会方式による運営、外部委託（地域連携に関する団体等）		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	高校卒業後のフォローアップまでは行っていないが、当該事業における活動の成果等を学校の学びに継承している。		
修了生の事例把握	把握している。 ・実施報告書に記載		

都道府県名	岡山県		
事業名	アートで地域づくり実践講座		
目的	地域のイメージアップとにぎわい創出を促進するアートイベント等を展開するための企画力、コーディネート力、広報技術などのスキルを備えた人材を育成する講座		
経緯	県が必要と判断し、事業を実施している。 ・地域の活性化を進めるには、交流人口の増加が必要であり、その有効な手段の一つとして、文化芸術を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出を促進する。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	平成26～30年度	受講規模	50人以下
実施形態	通学型		
受講者属性	年代	年齢・・・30代未満	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	地域住民等		
効果検証	参加者アンケート実施、外部評価（実行委員会）実施		
成果指標	設定（県が実施するアートマネジメント講座修了者数、地域の特色や魅力を行かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数）		
目標等	各期目標設定あり、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法（主体）	実行委員会方式による運営		
修了生への対応	修了証の交付、フォローアップ研修の実施、活動費用の補助・助成の適用		
修了生との関係	修了証を付与することで県内での活動を少しでも容易にし、活動を促すと共に、修了後3年までの者に助成金制度を設けている。		
修了生の事例把握	把握している。 ・当該講座の修了生の数人が、その後、県内で、地域づくり活動に取り組んでいる。		

ARTで地域づくり実践講座とは？

地域のイベントは、地域を活性化、賑わいを生み出すことができ、加えて、文化芸術を活用することで、子どもから大人まで、誰でも気軽に参加できます。そんなイベントを自分でコーディネートしてみませんか？ イベントの企画やマネジメント、アーティストとの交渉、広報の手法など、広範囲のノウハウを学べる実践講座がこの「アートで地域づくり実践講座」です。

※新型コロナウイルス対策を講じた上で実施してまいります。ご理解・ご協力をお願いします。

講座で学べる3つのPoint!

- 1 企画作りのノウハウ**
企画のやり方から地域との連携方法、予算、危機管理、広報手法など多岐にわたるノウハウを最先端のワークショップで学びます。
最後に、各年代別のイベント企画を作ることで、実践力を身につけます。
- 2 イベント経験**
地域の資源（歴史、文化、特産品など）の魅力を活かしたアートイベントを企画・実施・運営、実践します。実際にイベントを企画・実施・運営する経験が得られるだけでなく、イベントの魅力を伝えることも学びます。
- 3 ネットワークづくり**
一緒に学ぶ仲間はもちろん、講師や地域の方など、関わる方とのネットワークが広がります。修了後、後援者や講師が仲間として一緒にイベントを企画・実施することもできます。

特別な知識やイベント経験がないけど大丈夫？
やる気があれば大丈夫！講師の指導のもとノウハウの取得やイベント体験ができるので初心者でも安心です。

岡山県内に住んでいないけど、参加してもいいの？
住所は問いません。講座で学んだノウハウを使って、地元イベントを企画している修了生もいます。

自分がしているイベントをもっとよくなりたい！
講座では、イベント企画に必要なノウハウを学べるので、いままでの経験に不足していた点や改善できる点を学ぶことができます。

Schedule

11月1日、2日連続講座を開きイベント開催のノウハウを学びます。
※原則土曜日・県庁内市内で開催します。

日程	時間	内容
6月4日(土)	10:30～16:30	講座1 講座1の前半
6月5日(日)	10:30～16:30	講座2 講座2の前半
6月6日(月)	10:30～16:30	講座3 講座3の前半
6月7日(火)	10:30～16:30	講座4 講座4の前半
6月8日(水)	10:30～16:30	講座5 講座5の前半
6月9日(木)	10:30～16:30	講座6 講座6の前半
6月10日(金)	10:30～16:30	講座7 講座7の前半
6月11日(土)	10:30～16:30	講座8 講座8の前半
6月12日(日)	10:30～16:30	講座9 講座9の前半
6月13日(月)	10:30～16:30	講座10 講座10の前半
6月14日(火)	10:30～16:30	講座11 講座11の前半
6月15日(水)	10:30～16:30	講座12 講座12の前半
6月16日(木)	10:30～16:30	講座13 講座13の前半
6月17日(金)	10:30～16:30	講座14 講座14の前半
6月18日(土)	10:30～16:30	講座15 講座15の前半
6月19日(日)	10:30～16:30	講座16 講座16の前半
6月20日(月)	10:30～16:30	講座17 講座17の前半
6月21日(火)	10:30～16:30	講座18 講座18の前半
6月22日(水)	10:30～16:30	講座19 講座19の前半
6月23日(木)	10:30～16:30	講座20 講座20の前半
6月24日(金)	10:30～16:30	講座21 講座21の前半
6月25日(土)	10:30～16:30	講座22 講座22の前半
6月26日(日)	10:30～16:30	講座23 講座23の前半
6月27日(月)	10:30～16:30	講座24 講座24の前半
6月28日(火)	10:30～16:30	講座25 講座25の前半
6月29日(水)	10:30～16:30	講座26 講座26の前半
6月30日(木)	10:30～16:30	講座27 講座27の前半
7月1日(金)	10:30～16:30	講座28 講座28の前半
7月2日(土)	10:30～16:30	講座29 講座29の前半
7月3日(日)	10:30～16:30	講座30 講座30の前半
7月4日(月)	10:30～16:30	講座31 講座31の前半
7月5日(火)	10:30～16:30	講座32 講座32の前半
7月6日(水)	10:30～16:30	講座33 講座33の前半
7月7日(木)	10:30～16:30	講座34 講座34の前半
7月8日(金)	10:30～16:30	講座35 講座35の前半
7月9日(土)	10:30～16:30	講座36 講座36の前半
7月10日(日)	10:30～16:30	講座37 講座37の前半
7月11日(月)	10:30～16:30	講座38 講座38の前半
7月12日(火)	10:30～16:30	講座39 講座39の前半
7月13日(水)	10:30～16:30	講座40 講座40の前半
7月14日(木)	10:30～16:30	講座41 講座41の前半
7月15日(金)	10:30～16:30	講座42 講座42の前半
7月16日(土)	10:30～16:30	講座43 講座43の前半
7月17日(日)	10:30～16:30	講座44 講座44の前半
7月18日(月)	10:30～16:30	講座45 講座45の前半
7月19日(火)	10:30～16:30	講座46 講座46の前半
7月20日(水)	10:30～16:30	講座47 講座47の前半
7月21日(木)	10:30～16:30	講座48 講座48の前半
7月22日(金)	10:30～16:30	講座49 講座49の前半
7月23日(土)	10:30～16:30	講座50 講座50の前半
7月24日(日)	10:30～16:30	講座51 講座51の前半
7月25日(月)	10:30～16:30	講座52 講座52の前半
7月26日(火)	10:30～16:30	講座53 講座53の前半
7月27日(水)	10:30～16:30	講座54 講座54の前半
7月28日(木)	10:30～16:30	講座55 講座55の前半
7月29日(金)	10:30～16:30	講座56 講座56の前半
7月30日(土)	10:30～16:30	講座57 講座57の前半
7月31日(日)	10:30～16:30	講座58 講座58の前半
8月1日(月)	10:30～16:30	講座59 講座59の前半
8月2日(火)	10:30～16:30	講座60 講座60の前半
8月3日(水)	10:30～16:30	講座61 講座61の前半
8月4日(木)	10:30～16:30	講座62 講座62の前半
8月5日(金)	10:30～16:30	講座63 講座63の前半
8月6日(土)	10:30～16:30	講座64 講座64の前半
8月7日(日)	10:30～16:30	講座65 講座65の前半
8月8日(月)	10:30～16:30	講座66 講座66の前半
8月9日(火)	10:30～16:30	講座67 講座67の前半
8月10日(水)	10:30～16:30	講座68 講座68の前半
8月11日(木)	10:30～16:30	講座69 講座69の前半
8月12日(金)	10:30～16:30	講座70 講座70の前半
8月13日(土)	10:30～16:30	講座71 講座71の前半
8月14日(日)	10:30～16:30	講座72 講座72の前半
8月15日(月)	10:30～16:30	講座73 講座73の前半
8月16日(火)	10:30～16:30	講座74 講座74の前半
8月17日(水)	10:30～16:30	講座75 講座75の前半
8月18日(木)	10:30～16:30	講座76 講座76の前半
8月19日(金)	10:30～16:30	講座77 講座77の前半
8月20日(土)	10:30～16:30	講座78 講座78の前半
8月21日(日)	10:30～16:30	講座79 講座79の前半
8月22日(月)	10:30～16:30	講座80 講座80の前半
8月23日(火)	10:30～16:30	講座81 講座81の前半
8月24日(水)	10:30～16:30	講座82 講座82の前半
8月25日(木)	10:30～16:30	講座83 講座83の前半
8月26日(金)	10:30～16:30	講座84 講座84の前半
8月27日(土)	10:30～16:30	講座85 講座85の前半
8月28日(日)	10:30～16:30	講座86 講座86の前半
8月29日(月)	10:30～16:30	講座87 講座87の前半
8月30日(火)	10:30～16:30	講座88 講座88の前半
8月31日(水)	10:30～16:30	講座89 講座89の前半
9月1日(木)	10:30～16:30	講座90 講座90の前半
9月2日(金)	10:30～16:30	講座91 講座91の前半
9月3日(土)	10:30～16:30	講座92 講座92の前半
9月4日(日)	10:30～16:30	講座93 講座93の前半
9月5日(月)	10:30～16:30	講座94 講座94の前半
9月6日(火)	10:30～16:30	講座95 講座95の前半
9月7日(水)	10:30～16:30	講座96 講座96の前半
9月8日(木)	10:30～16:30	講座97 講座97の前半
9月9日(金)	10:30～16:30	講座98 講座98の前半
9月10日(土)	10:30～16:30	講座99 講座99の前半
9月11日(日)	10:30～16:30	講座100 講座100の前半

申込書は裏面へ

出典
岡山県
ホームページ

都道府県名	広島県		
事業名	ひろしま「ひと・夢」未来塾		
目的	中山間地域で起業や地域課題解決の取組を志す人材の育成		
経緯	中山間地域における地域づくり活動の担い手が、少子高齢化により不足している中、多様な主体の地域づくりへの参画を促進するため、地域づくり活動を支える20代～40代の若者層の地域づくり人材を育成・確保することとした。		
予算規模	500万円以上		
開始時期	平成26～30年度	受講規模	50人以下
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）		
受講者属性	年代	年齢・・・30、40代	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	NPOや地域づくり団体のスタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等		
効果検証	参加者アンケート実施		
成果指標	設定（チーム500登録者数）		
目標等	各期目標設定あり、未達に対し必要な取組み認識あり		
運営方法（主体）	外部委託（県が行う物品及び役務を調達するための競争入札に参加する者に必要な資格等によって、資格を認定されている者）		
修了生への対応	修了証の交付、他の研修における講師への登用、活動費用の補助・助成の適用		
修了生との関係	地域づくり活動実践者のプラットフォームである「ひろしま里山・チーム500」に登録してもらい、登録者間や活動に関心のある人とのつながりづくりや、活動のステップアップに必要な支援を行っている。		
修了生の事例把握	把握している。 ・起業準備コースの42名（R1：11名、R2：15名、R3：16名）、地域密着型人材育成コースの10名については、チーム500に登録し、中山間地域において地域づくり活動を実践している。		

都道府県名	山口県		
事業名	やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業 (人材育成事業)		
目的	「やまぐち元気生活圏」づくりに向け、地域づくり人材・団体の育成など、市町や地域への支援体制の強化を図る。		
経緯	高齢化の進行により地域を担うリーダーや人材の不足等の課題があり、実施に至った。		
予算規模	200万円以上 300万円未満		
開始時期	平成25年度以前	受講規模	100人程度
実施形態	通学型、オンライン型 (Zoom や Webex)		
受講者属性	年代	年齢・・・50代、65歳未満	
	職業	職業・・・無職、その他	
受講対象	NPO や地域づくり団体のスタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員、高校生、大学生等		
効果検証	参加者アンケート実施、内部評価 (所属長) 実施、検証手法の議論あり		
成果指標	設定 (山口県中山間地域づくりビジョンの施策目標: 中山間地域づくり人材育成研修の参加者数 (累計): 550人 (5年間))		
目標等	設定なし		
運営方法 (主体)	都道府県の職員を中心とする運営		
修了生への対応	特になし		
修了生との関係	参加者同士の広域的なネットワークが構築されるよう、研修の中で情報の提供・交換等を行うための場づくりをしている。		
修了生の事例把握	把握していない		



出典
山口県
ホームページ

都道府県名	山口県																																												
事業名	地域活性型インターンシップ推進事業																																												
目的	地域の関係機関等と連携して地域活性化に向けた取組を実施する高等学校等に経費を支援。																																												
経緯	普通科高校を対象に、平成24年度までは「企画・研究型インターンシップ」(地域の大学、地元の企業や自治体等と連携して、生徒の学習内容や将来の進路希望に応じた共同研究や共同開発を行う取組)、平成25年度は「1次産業インターンシップ」(地域の事業所、大学・研究機関、自治体等において、生徒の学習内容や将来の進路希望に応じ、6次産業を視野に入れた1次産業に関する一体的な就業体験を行う取組)を実施したが、地域社会と連携したより幅広い体験活動を可能とするために、両事業の要素を統合し、平成26年度から「地域活性型インターンシップ」を実施することとなった。																																												
予算規模	100万円以上200万円未満																																												
開始時期	平成26～30年度	受講規模	1,000人程度																																										
実施形態	通学型、オンライン型 (ZoomやWebex)																																												
受講者属性	年代	年齢・・・30代未満																																											
	職業	職業・・・無職、その他																																											
受講対象	その他																																												
効果検証	参加者アンケート実施、外部評価実施																																												
成果指標	設定なし																																												
目標等	各期目標設定																																												
運営方法(主体)	都道府県の職員を中心とする運営																																												
修了生への対応	特になし																																												
修了生との関係	本事業を経験した生徒が、将来的に就職又は進学するにあたり、県内に留まり、引き続き地域の活性化に貢献することを期待している。																																												
修了生の事例把握	把握していない																																												
<p style="text-align: center;">地域の企業・事業所や大学・研究機関等と連携し、インターンシップを行う普通科をもつ高校 (地域活性型インターンシップ推進事業)</p> <p style="text-align: center;">>> もとのページへ戻る</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>岩国地域</th> <th>柳井地域</th> <th>周南地域</th> <th>防府地域</th> <th>厚狭地域</th> <th>下関地域</th> <th>萩地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩国高校 坂上分校</td> <td>豊後大東高校</td> <td>豊後高校</td> <td>山口高校</td> <td>宇部高校</td> <td>田部高校</td> <td>大津緑洋高校</td> </tr> <tr> <td>新羅高校 広瀬分校</td> <td></td> <td>熊毛北高校</td> <td>山口商校 徳佐分校</td> <td>宇部中央高校</td> <td>高市高校</td> <td>萩高校</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>新南陽高校</td> <td>防府高校 佐波分校</td> <td>厚狭高校</td> <td>下関北高校</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>熊野南高校</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>小野田高校</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">※ 赤字は過去に指定を受けた学校です。</p>				岩国地域	柳井地域	周南地域	防府地域	厚狭地域	下関地域	萩地域	岩国高校 坂上分校	豊後大東高校	豊後高校	山口高校	宇部高校	田部高校	大津緑洋高校	新羅高校 広瀬分校		熊毛北高校	山口商校 徳佐分校	宇部中央高校	高市高校	萩高校			新南陽高校	防府高校 佐波分校	厚狭高校	下関北高校						熊野南高校							小野田高校		
岩国地域	柳井地域	周南地域	防府地域	厚狭地域	下関地域	萩地域																																							
岩国高校 坂上分校	豊後大東高校	豊後高校	山口高校	宇部高校	田部高校	大津緑洋高校																																							
新羅高校 広瀬分校		熊毛北高校	山口商校 徳佐分校	宇部中央高校	高市高校	萩高校																																							
		新南陽高校	防府高校 佐波分校	厚狭高校	下関北高校																																								
				熊野南高校																																									
				小野田高校																																									
出典：やまぐち総合教育支援センターホームページ																																													

都道府県名	佐賀県			
事業名	SAGA ローカリストアカデミー			
目的	若い世代の方に地域づくりに興味・関心を持ってもらい、新たな動きにつなげることを目的として、県内で地域づくり活動を牽引している人材（ローカリスト）と交流、地域づくりについて学ぶイベント			
経緯	「自分たちの手で地域を元気にしたい」という地域住民の自発の機運が高まる一方、地域づくりの担い手の高齢化が進む中で、地域住民から「若い世代の参加が少ない」という声が聞かれていた。しかし、若い世代が地域に全くいないわけではなく、住んでいても地域づくり活動に消極的であることから、これからの地域づくりの担い手として、若い世代に地域づくりにもっと興味をもってもらい、新たな動きを創出することを目的として実施。			
予算規模	400万円以上 500万円未満			
開始時期	平成26～30年度	受講規模	100人程度	
実施形態	通学型、オンライン型（ZoomやWebex）			
受講者属性	年代	年齢・・・30代未満	職業	職業・・・把握なし
受講対象	地域住民等、高校生、大学生等		効果検証	参加者アンケート実施
成果指標	設定（地域づくり活動（本事業内にて実施するお試し地域づくり活動）に参画した実人数）			
目標等	各期目標設定、到達			
運営方法（主体）	外部委託			
修了生への対応	特になし			
修了生との関係	現在、参加者との参加者との関係構築等に関する明確な取組は行っていない。			
修了生の事例把握	把握している。 ・令和3年度参加者がお試し地域づくり活動を通して参加地域（多久市）のまちづくり協議会に加入。事業後も継続して活動に参加している。			

LOCALIST

これが地域づくりの第一歩。
SAGAローカリストアカデミー開講。

地域での活動を通じて、まちの新しい活力や課題を発信している「ローカリスト」、そんなローカリストとの交流を通じて、地域について共に考え、地域づくりの経験ができる、「SAGAローカリストアカデミー」が今年も開講します。

SAGAローカリストアカデミー 2022 10月15日 sat. 参加者募集

西本 崇成【唐津市】
NPO法人らびらびら（活動地）/ 唐津市 / トラピエール 代表

田中 重【佐賀市】
2022 町長

原田 光【鳥栖市】
鳥栖市観光局 鳥栖市NPO法人アピオアム 代表

三橋 孝之【唐津市】
アピオアムアピオアム 代表 / 唐津市一級建築士事務所

佐賀県

SAGAローカリストアカデミー

佐賀県内で地域づくり活動を担う4人のローカリストをお迎えし、県内の県内県外や地域内のネットワークなど、地域づくりに関するアンソロジートークセッションします！その後、ローカリストと一緒に地域づくりの経験についてお話を伺いながら地域づくりの経験を行います。

10月15日 Sat. 14:00～18:00
佐賀県庁【佐賀市橋下1丁目1-59】
※本会主催で他の団体や個人で参加はできません。
※参加費は無料です。お申し込みは10月10日までです。

先着50名 参加費無料
※お申し込みは10月10日まで
※定員 50名

お話し地域づくり活動
ローカリストと共に、地域が抱える課題解決に取り組むことができる「お話し地域づくり活動」、ローカリストの考える「地域づくり活動」に参加できます！あなたのアイデアで新たなまちの発展が生まれるかも！

同時開催予定! 詳しくは「SAGAローカリスト」LINE公式アカウントをチェック!

応募方法
「SAGAローカリストアカデミー」と「お話し地域づくり活動」はそれぞれ参加募集をしています。ローカリストの話を聞きたい方や、実際に参加したい方もローカリストに問いたい方はご応募ください。

- 「SAGAローカリスト」のLINE公式アカウントを友達登録
- メニューにある「応募フォーム」をクリック
- フォームに入力
- 応募完了

お問い合わせ先 SAGAローカリストアカデミー（事務局）
TEL:0992-25-9085（10時～17時 土日祝日） Mail:edit@saga@gmail.com
メールアドレス:edit@saga@gmail.com, edit@saga@gmail.com
※メールが受信できない場合は、お電話でご確認ください。お申し込みは10月10日までです。
※お申し込みいただいた個人情報は、お申し込みの目的以外に第三者へ提供いたしません。

主催：佐賀県 多岐担当事務局
Copyright © 2022 SAGA Localist. All Rights Reserved.

出典
佐賀県
ホームページ

都道府県名		鹿児島県		
事業名	地域づくり人育成事業			
目的	多様な主体との協働による地域課題の解決等に向けた取組に必要な人材を育成するため、地域づくりの企画力や活動のスキルを習得する実践的な講座を実施する。			
経緯	共生・協働の地域社会づくりを推進するにあたり、住民生活に最も身近な地域コミュニティは重要な役割を持つことから、地域コミュニティづくりにおける人材を育成するため。			
予算規模	100万円以上 200万円未満			
開始時期	平成25年度以前	受講規模	50人以下	
実施形態	通学型、オンライン型 (ZoomやWebex)			
受講者属性	年代	年齢・・・30、40代	職業	職業・・・無職、その他
受講対象	NPOや地域づくり団体のスタッフ、自治会、地域協議会等の関係者、地域住民等、都道府県職員、市区町村職員、高校生、大学生等、その他			
効果検証	参加者アンケート実施			
成果指標	設定 (講座修了者数)			
目標等	各期目標設定、到達			
運営方法 (主体)	外部委託 (NPO等非営利活動団体や大学、企業等)			
修了生への対応	修了証の交付、その他			
修了生との関係	講座の講師 (アドバイザー) を過去受講生等へ依頼するほか、過去受講生を対象に大同窓会を実施し、過去受講生による活動報告やトークセッション等を実施している。			
修了生の事例把握	<p>把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R元年度に当講座を修了し、その後、古民家を改修しカフェ&ゲストハウスを開業。地域の交流拠点として地域活性化に取り組むとともに、地域の多様な主体が連携・協力する地域コミュニティづくりに取り組む。R2年度から講座アドバイザーとして参加。 ・R2年度に当講座を修了し、その後、空き店舗を改修・活用した異業種交流拠点をオープン。起業やイベント開催等を後押しするほか、県事業において取組紹介等を行っている。 ・R3年度に当講座を修了し、その後、空き倉庫を活用した複合商業施設をオープンするほか、地区コミュニティ協議会連携によるコミュニティビジネスの推進に向けた事業 (県委託事業) を実施。 			

本気の地域づくりプロデューサー養成講座

受講生募集中

2022.9.5 (日) 17:00 締切

第1部 地域を取り巻く環境を把握する

10.8 第1講 オリエンテーションと自己紹介を促す
10.10-17.00 第2講 「地方創生と地域コミュニティの役割」
講師：梶原英典 (自治体大学客員)

第2部 県内の実践事例に学ぶ

10.9 第3講 実践事例で学ぶ
12.00-17.00 第4講 実践事例の深掘り(オンライン)
講師：伊藤大輔 (NPO)

第3部 取り組むテーマを定め、企画をつくる

11.6 第5講 実践事例を振り返る
10.00-17.00 第6講 実践事例の深掘り(オンライン)
講師：伊藤大輔 (NPO)

第4部 企画を伝える

2.12 第11講 企画のプレゼンテーション
10.00-17.00 第12講 実践全体を振り返る

出典：鹿児島県ホームページ